

令和5年度 第1回 西部中学校運営協議会 会議録(要点記録)

- 1 開催日時 令和5年5月11日(木) 午後3時から5時まで
- 2 開催場所 西部中学校 会議室
- 3 出席委員 藤谷昌宏、長野正弘、小楠達司、大渡三千子、松本鮎子
- 4 欠席委員 明石真
- 5 学校 岡本雅康(校長) 小出義幸(教頭) 清澤涼介(CS担当教員) 宮崎幸枝
(CSディレクター)
- 6 教育委員会 鈴木陽子(教育総務課)
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 宮崎幸枝
- 9 会長の選出及び副会長の指名

司会から会長の選出について委員に意見を求めたところ、藤谷委員から長野委員を会長推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを了承した。またその後、会長に選任された長野委員から、小楠委員を副会長に指名する旨の報告があった。

10 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、長野委員から藤谷委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

- (1)学校運営の基本方針について
- (2)いじめ防止等のための基本方針について
- (3)夢育やらまいか事業CS加算分に対する意見書について

12 会議記録

司会の清澤から、委員総数6人のうち5人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

続いて以下の通り校長挨拶があった。

新しい年度がスタートし、1ヶ月が過ぎた。4月当初から新たな決意を持って各々が頑張っている。

1年生は部活動がスタート(本入部の日)。気持ちよくのぞんで行ってほしい。元気のよい学年である。

2年生は先輩として頑張れるように、5月の野外活動に向けて準備をしている。

3年生は最上級生としての自覚が芽生えつつある。今年は4月に修学旅行も実施した。6月には、部活動最後の大会が始まる。順調なスタートがきているのではないかと。

本年度からCSを設置する運びとなった。CSの柱として ①風作り ②社会福祉協議会との連携のもと、地域に出ていくボランティア活動、の2つを考えている。より良い学校運営に努めていく。様々な課題を解決するにはいろいろなネットワークにつないで、地域の皆様と学校が力を

合わせていく必要があると実感している。学校運営がCSによって強化されていき、西部中の地域の基盤を生かした人作りを目指す。

次に教育総務課の鈴木陽子指導主事から挨拶があった。

学校運営協議会が設置された学校は145校中140校135協議会になった。目指す子供の姿を共有し、力をつけた西部中の生徒を育ててほしい。学校の運営状況をより良いものにしていくために、それぞれが納得、了解できるまで話し合おう。CSは周知されてきたが、まだまだ地域にわかっていただけていない部分も多い。良い発信方法などあれば教えていただききたい。

(1) 令和5年度西部中学校運営基本方針について

議長の指示により校長から別紙資料に基づき学校運営方針について説明があった。本年度、本校は402名1年2年3年各4クラス、ほまれ学級2クラスの計14学級となった。生徒は明るくてとても素直であり、係、当番の仕事を頑張っている。ルールを守り、集団行動ができていて感心している。3大行事はもちろん、学年ごとの行事にも意欲的に取り組んでいる。男女関係なく、学年問わずよく関わって、教員の話真剣に聞いている。

一方、指示したことはできるが、自ら考え動く力を伸ばしていくことが課題である。

教育熱心な家庭が多く、期待に応えようとがんばろうとする生徒が多い。

スマホの普及によりコミュニケーション力が低下している。昔は直接会話することで相手の立場や思いを理解していたが、今はスマホの文字を見るだけが多い。スマホの使用方法において不適切な場面が見られるため、学校、家庭、地域を挙げて取り組みたい。

教員の若返りが図られている。子供と年齢が近いことから、子供の会話により近くなり、話しやすい良い関係ではある。その反面距離が近くなりすぎ、仲の良い友達関係になってはいけない。教育者として、大人として毅然な態度で接していきたい。

西部中職員のチームワークを活かし、子供を育てるために何ができるか、若手、ベテランが協力して子供に寄り添うことのできる集団にしたい。

校舎は6月に完成、2学期から使用。その後2年かけて解体。現在校舎のあるところを掘り起こしてグラウンドを作る。部活、行事などはほかの場所で行うこともある。

委員からは以下の発言があった。

- ・ グランドデザインに示された「誉れをあげん」は、皆さんご存じのとおり、校歌3番に「誉れをあげん」とある。インパクトがあり、いいキャッチングだと思っている。(長野会長)

→校長から以下の回答があった。

「誉れをあげん」は生徒からもよく言葉が出る。昨年生徒たちに「君たちの誉れは？」と聞いたら様々な言葉があった。学校自慢、良い行動をする、当たり前5項目、プラス思考で考えてくれているんだなと感じた。

- ・ いい言葉だなあ感じる。自分らしさにつながる。(長野会長)

- ・心の豊かさ、意思を持って学び続ける生徒とはなんだろう、と私なりに考えている。校長先生は心を耕すとおっしゃった。私は畑仕事をしている。畑は常に耕している。百姓は耕すのが仕事。自分の心は何もしないと草が生え、虫が湧く。自分で耕さないといけない。身体を使って人と接して体験をすることが大事だと思う。昨年子供たちの草取りボランティアに参加した。庭が非常に綺麗になるときれいな心、清い心になる。西部中の教育目標大賛成。(小楠副会長)
- ・親の期待が大きすぎて、中3で心がつぶれてしまった生徒がいた。家庭でつらい思いをしている生徒もいるので学校でも考えて対応してほしい。(大渡委員)
- ・参観会で若い先生が多いなあと思った。道徳の授業で、「マジで？ヤバい！」などの発言が先生からあり、いいのかなあと心配になった。子供たちからしたら関わりやすいのかなあ？しかし授業中に「マジ？」はどうだろうか。メリハリを持って接してほしい。(松本委員)
- ・言葉遣いは大事です。TPOによって使い分ける。教壇に立ったらそれなりの言葉遣いをして欲しい。(長野会長)
- ・メリハリが大事ですね。(藤谷委員)
- ・時代錯誤かもしれないが、卒業生は西部中卒のプライドを持っている。(名門西部中)3小学校の生徒さんはぜひ西部中に来て欲しい。95%は西部中に来てほしい。グランドデザインに沿って生徒を育て、子供も親も西部中に行きたいと思ってほしい。(藤谷委員)
- ・不登校の子供の様子の聞き取りをしたことがある。県居小は昔から特別支援学級があったから関わり方を知っていて距離感のつかみ方が違うと感じている。(長野会長)
- ・3校が集まったからとかスマホに関わった事が原因で不登校になった生徒がいた。(大渡委員)

→校長から以下の回答があった。

全市的に不登校が増えている。生徒数は減っているが発達学級は増えている。多くの学校に発達学級ができたため、西部中の発達学級は減っている。また西部中では校内まなびの教室があり、支援員に加え、教員を配置し授業も実施している。昔は保健室登校があったが今はない。家に閉じこもるのではなく学校に来る体制をつくっている。機会があったらまなびの教室もご覧になっていただきたい。

・いろいろな意見ありがとうございました。(藤谷委員)

(2) いじめの防止等のための基本方針について

校長から資料に基づき説明があった。

・意見があれば、、、よろしいでしょうか。(藤谷委員)

全員異議なくこれを了承した。

(3) 夢育やらまいか事業CS加算分に対する意見書について

議長の指示により、小出教頭から以下の説明があった。

特色ある学校作りのために浜松市から負担金をいただいている。現在は凧づくりの材料費、部活動の横断幕等に使っている。今年度西部中がCSになったため、さらに加算されることになった。昨年は保護者で1枚凧を揚げた。コロナも収まりつつあり、凧づくりに関わる生徒の数

も増えてきた。凧作りに使う道具や材料などは十分な数を用意する必要がある。また多くの地域住民や保護者が「凧揚げ大会」に関わることができるよう、現在用意している告知用のファイルや各所に貼り出すポスターの数を増やし、多くの人の目に触れるようにする。「当たり前 5 項目」や「いじめの防止」に関して、生徒の意識を高めるために、保護者、地域住民、教職員を含めた大人の意識を高めるためにのぼり旗を作成し、学校周辺に立ててはどうか。

・説明内容について、ご意見ご質問を伺います。(藤谷委員)

全員異議なくこれを承認した。

その他連絡事項等

次回開催予定及び年間計画

司会から、次回会議は、令和 5 年 10 月 12 日(木)午後 3 時から、第 3 回会議は令和 6 年 2 月 15 日(木)午後 3 時から、開催する旨の報告があった。

司会から、次回協議会の議長の選出について意見を求めたところ、引き続き藤谷委員を議長に推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。